

週刊 タバコの正体

タバコを吸うとその煙が最も多く直接的に吸い込まれるところは肺です。毎日何本もタバコを吸うと肺は相当なダメージを受けます。その結果、タールが染みついた黒い肺や、15歳までにタバコを吸い始めると肺がんになる確率が30倍にもなる事を紹介してきました。

じつは、それ以外にも下の写真のような病気になる確率も高くなります。この病気は「慢性閉塞性肺疾患(まんせいへいそくせいはいしっかん)」(COPD)と呼ばれています。ひと言で説明すると「肺がスカスカになって、呼吸ができなくなる病気」なのです。肺がスカスカになると、写真のように縮んだり膨らんだりできなくなるので息を吸い込むことも吐き出すこともできなくなるわけです。

息をしたくても空気を吸い込めないのですから怖いですよ。だから、この病気が進行すると24時間酸素ボンベとともに生活しなければならなくなります。こんな事になるのを知ってタバコに手を出す人はいないはずですよ。

産業デザイン科 奥田 恭久

